

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12038

研究課題名(和文) トリアージ看護ケアモデル開発に関する研究

研究課題名(英文) A Study to Develop a Triage Nursing Care Model

研究代表者

西塔 依久美 (SAITO, Ikumi)

東京医科大学・医学部・助教

研究者番号：30761085

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：救急外来のトリアージにおける看護ケアモデルを開発することを目的として研究を実施した。

トリアージの実践場面の観察とトリアージナースへのインタビュー調査から、トリアージナースが緊急度判断に至る思考やプロセス、トリアージ場面で実践される看護ケアの内容について明らかにした。

結果、トリアージプロセスの各場面で臨床推論の思考を基盤とした緊急度の判断を行っており、【生命を守るケア】【症状緩和のためのケア】【症状の進行を予防するケア】【苦痛や不安緩和のためのケア】を実践していることが示唆された。これらの結果をもとにして、「院内トリアージにおける看護ケアモデル(案)」を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

トリアージの実践場面の観察とトリアージナースへのインタビュー調査から、トリアージナースが緊急度判断に至る思考やプロセス、トリアージ場面で実践される看護ケアの内容について明らかにした。これらの結果をもとにして、「院内トリアージにおける看護ケアモデル(案)」を作成した。

COVID-19の影響で看護ケアモデル(案)を洗練化し、臨床現場での活用可能性について検討し完全にモデル化するまでには至らなかったが、本研究によってトリアージナースによる看護ケアが患者・家族の信頼を生み、救急医療を受ける人たちに安心と安全を提供していることを意味づけられた考える。

研究成果の概要(英文)：This study aims to develop a triage nursing care model in emergency department. An observation study at the triage practice scenes and a survey using a questionnaire targeting triage nurses were conducted to clarify their thoughts, the process of emergency judgments and the actual nursing care practices at the critical situation.

The present study found that nurses had to make urgent decisions each triage process, the decisions are made based on the clinical reasoning. The nurses provided nursing care for patients with 4 purposes: to protect their life, to relief symptoms, to prevent symptoms from progressing, and to relief of distress and anxiety. Based on the results, we created a "nursing care model for emergency department draft".

研究分野：救急看護

キーワード：救急外来 トリアージ 緊急度判定 トリアージナース 看護ケア 臨床推論 救急看護

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1)わが国では 1990 年代後半から救急外来看護師などによる院内トリアージが注目されるようになり、2006 年から救急医療における安全な医療を遂行するためのトリアージシステム開発・整備が学会主導で行われ、2010 年に緊急度判定支援システム(以下、JTAS)が公開された。同時に、トリアージナースの育成が全国で行われ、中央社会保険医療協議会(中医協)での院内トリアージ加算が認められるなど、JTAS や院内トリアージは一気に全国へ拡がりを見せた。

(2)一方で、救急外来におけるトリアージの評価は一部の病院のレポートでしかなく、院内トリアージを行った患者のアウトカムや緊急度判定支援システムそのものの信頼性・妥当性についての研究報告は少ない。また、JTAS や院内トリアージの普及は進んでいるものの、院内トリアージにおける看護ケアを明文化した研究はほとんどない。

(3)JTAS やトリアージシステムが救急医療を受ける患者にとって安心・安全なものであり信頼できるシステムであることを示すためには、トリアージナースがどのような思考で緊急度判断を行い、限られた場面の中でどのような看護ケアを提供しているのかを明らかにする必要がある。そして、トリアージ看護ケアモデルの開発により、トリアージ看護の意義が提言できると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の 3 点である。

- (1)トリアージナースの緊急度判断に至る思考やプロセスを明らかにする。
- (2)救急外来トリアージにおける看護ケアを明らかにする。
- (3)目的の(1)(2)で得られた結果をもとに、院内トリアージの看護ケアモデルの開発を行う。

### 3. 研究の方法

研究目的の(1)(2)を達成するために、院内トリアージ実施料を算定している全国の救急告示医療機関に勤務するトリアージナースで、トリアージ経験年数が 3 年以上の看護師を対象として、受動的参与観察によるフィールド調査とインタビュー調査を行った。トリアージ実践場面の調査を行うにあたり、所属大学の医学倫理審査委員会の承認を得て行った。

#### (1)受動的参与観察によるフィールド調査

JTAS を使用している施設のトリアージナースによるトリアージの場面を観察し、その実践場面から緊急度判断に至る思考やプロセスに関連する内容を抽出した。

#### (2)インタビュー調査

フィールド調査をもとにトリアージナースへの半構造化面接を行い、トリアージナースが考える看護ケアについて実践者の語りから抽出した。NVivo12 を使用してテキストマイニングによる分析を行った。

#### (3)トリアージ看護ケアモデルの開発

上記(1)(2)の結果をもとに「院内トリアージにおける看護ケアモデル(案)」を作成した。このモデル(案)をもとに、国内のエキスパートナースや JTAS のもとになった CTAS を開発したカナダの医療スタッフと

ともにトリアージの看護ケアモデルの活用可能性について検討することを考えていたが、新型コロナウイルス感染症による渡航制限により中断した。

#### 4. 研究成果

##### (1) フィールド調査

研究対象者として同意が得られたのは7名で、フィールド調査が不可であった1名を除く6名のデータを分析対象とした。研究対象者のトリアージ経験年数は6.3年±1.2年であった。

緊急度判断のプロセスはJTASのトリアージプロセスに準じたものであったが、調査施設のトリアージ体制は、トリアージナースが患者に接触する前に、受付事務員や問診表などによる患者の情報提供があり、その事前情報を解釈するプロセスがあった。つまり、JTASプロセスの「第一印象」の前に仮の緊急度判断を行うプロセスがあった。また、トリアージプロセスの各場面で緊急度に影響する情報が入るたびに緊急度判断を行っていることが分かった。緊急度判断の思考は、対象者の症候から病態を想起する仮設演繹法を中心とした臨床推論が用いられていた。

##### (2) インタビュー調査

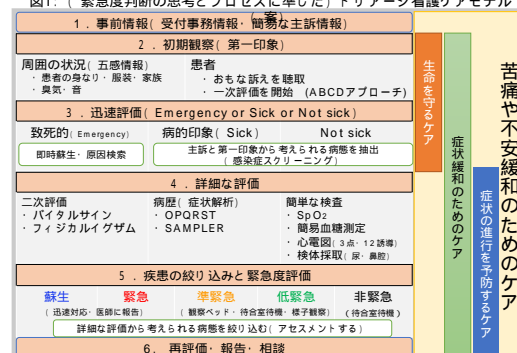
インタビュー調査の逐語録をテキストファイル化した後、記述内容を熟読して概要をつかみ、コーディングファイルを作成した。インタビューデータから看護ケアに関連する頻出語は「患者」、「ケア」、「家族」、「訴え・言う」、「聞く」、「意識」、「看護」、であった。また共起するキーワードとして、「印象」、「表情」、「判断」、「思い・不安」、「知る」、「配慮」、「症状」、「緩和」、「待つ」、「汲み取る」、「安心」、「安全」などが抽出された。

トリアージの実践はわずか3~5分の関わりであるが、トリアージプロセスのすべての場面で常に対象者の不安の緩和を念頭に対応していることが明らかとなった。まずは患者や家族の訴えを聞くことで思いを汲み取り安心を提供していると考えられた。また、対象の症状に応じた待機場所の提供やファーストエイドの実践、患者指導などから、それぞれの場面に応じた【生命を守るケア】【症状緩和のためのケア】【症状の進行を予防するケア】【苦痛や不安緩和のためのケア】を実践していることが示唆された。これらの看護ケアが患者・家族への信頼を生み、診察待ち時間に対する苦情の減少といった効果も生み出していた。トリアージナースが看護ケアに至る思考の基盤となるものは「患者や家族が体験しているであろう不安や苦痛を緩和したい」という思いであり、その思いが対象に応じたケアの提供につながっていることが示唆された。

##### (3) トリアージ看護ケアモデルの開発

フィールド調査とインタビュー調査の結果から、JTASのトリアージプロセスを発展させ「緊急度判断の思考とプロセス」を模式化した。その模式図に各プロセスで展開されている看護ケアを組み入れ「トリアージ看護ケアモデル(案)」(図1)を作成した。今後は、作成した「トリアージ看護ケアモデル(案)」の臨床現場での活用可能性について検討し、洗練化する予定である。

図1: (緊急度判断の思考とプロセスに準じた) トリアージ看護ケアモデル



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 西塔依久美
2. 発表標題 トリアージ看護ケアモデルの開発に関する研究 第1報 トリアージナースの緊急度判断に至る思考とプロセスの分析
3. 学会等名 第22回日本救急看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西塔依久美
2. 発表標題 トリアージ看護ケアモデルの開発に関する研究 第2報 院内トリアージにおける看護ケアとは何か
3. 学会等名 第22回日本救急看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大川 宣容  (OKAWA Norimi)  (10244774)	高知県立大学・看護学部・教授    (26401)	
研究分担者	井上 正隆  (INOUE Masataka)  (60405537)	高知県立大学・看護学部・講師    (26401)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	奥寺 敬  (OKUDERA Hiroshi)  (50252101)	富山大学・学術研究部医学系・教授   (13201)	
研究 協力者	菅原 美樹  (SUGAWARA Miki)  (60452992)	札幌市立大学・看護学部・准教授   (20105)	
研究 協力者	中村 恵子  (NAKAMURA Keiko)  (70255412)	札幌市立大学・看護学部・特任教授   (20105)	